

Mesoplodon について

山田致知 (日本海セトロジー研究グループ)

① *Mesoplodon* とは *Ziphius*, *Berardius* とともに Ziphiidae を構成する歯鯨の一属, 世界中の海に分布し, 12種が知られていたが, 最近 *peruvianus* という新種が加わった (Mead, Marine Mammal Science, 1991)。

Ziphiidae のメンバーはすべて上顎に歯がない → マッコ。

頭骨上面がスコップ状に凹む。

情報は依然乏しい。現在標本を再検討して分類学を整理したのは J.C. Moore (1963) で, 北太平洋ないし日本近海産のメソプロドンは少なくとも 4 種類あると明らかにされていた。

carlhubbsi, *ginkgodens*, *densirostris*, *stejnegeri*

② 漂着例を見ると: 西山 M 4800, 魚津 F 4900, つまり体長は雌が雄より大 (富来は別)。

7 等身 = 脊柱部体幹の相対長大 (6 × 頭骨長), 棘突起も長く = 筋性なのが特徴

Mead (1989) によると *Mesoplodon* 属の椎骨式: C 7, D9/11, L8/11, Ca17/21 では計 41/50 で, 分節の総和に種のあいだで最大 9 の分節差ができることを考えると, 体部を区分する流儀では全体としての展望がしにくくなる。新しい提案として通して考えると, 椎骨式は次のようになる。

西山 M: C1-7, C8-16, L17-27, Ca28-45

富来 F: C1-7, D8-17, L18-27, Ca28-34+

例数は少ないので不確定だが, 例えば両個体とも第 24 節の棘突起が最長というように, おそらく種の特徴として注目されるものが特定できるのではないか。(富来は骨化完了しているが小さい → 不思議)

③ 頭骨は笠をかぶったように Telescoping できた上顎顔面盤 *Discus maxillofacialis* によって上面 (鼻孔域) と下面 (内臓部) が区別される。上面中央の鼻孔の後ろに烏帽子状の隆起 Vertex ができるのが *Mesoplodon* の最大の特徴。Vertex の正中部に

は前に鼻骨, 後ろに顔面骨が並び, この一見ゴタゴタした骨の塊を両外側からまず顎間骨が, その外側を上顎骨の Telescope 終末が囲む。構成骨の比率などにはかなりの個体差があるが, 顎間骨の骨稜より後ろの部分は【 】のように囲み, 前後端相互の間隔には限度がある。

この関係には, 例えばアカボウと同じところもあり, おおいに様相を異にするところもある。その顎間骨は鼻骨の前に出ることはなく, 終始外側にあって独立に顔面骨稜に達する (相違点)。重要なことは, 鼻孔上縁で顎間骨に顎間骨稜とよぶ前突のコブを生じること, しかも骨稜はここで前屈みに折れ, 横から顎間骨の輪郭を辿ると不連続になるが, *stejnegeri* の決め手の一つという。この骨稜に類する特殊な隆起構造はアカボウにもあるが, 形成機構はアカボウの顎間骨と類似のネジレによる (類似点)。参考のため 90 輪島名船 F を解剖してみると, 顎間骨稜 (烏帽子) は機能的には外鼻孔の後唇の付着に役立ち, その庇の蔭は鼻憩室の行きづまりとなる。多くの歯鯨と同じく頭骨には不相称があるが, 軽度である。右の顎間骨の発達がよく, 鼻孔から顎間骨稜の範囲でとくに右が大きい。

④ Moore は *Mesoplodon* の標本を検討して, 以下のような諸項目を分類学的な注意点として挙げているが, この中には該当するものもあるがしないものもある。今後この食い違いをどう判断するかが問題となる。

A. Premaxillary brow crease

B. Vertex

C. Angle, antorbital notch → *stejnegeri* では鈍角

D. Orientation, premaxillary crest

E. Tilt, spiracular plate

F. Prominential notch

G. Height, maxillary prominence

H. Rostral profile, Mesorostral ossification の

出現は性には係わりない種の特徴。進行すると吻は象牙様になる。上も下も直線的。

I. Antorbital tubercle

J. Pterygoid sinus Ziphiidae 翼状洞は特徴的に大きい。が、*stejnegeri* ではその前端が眼窩前切痕より前へ出ることはないという。この条件を満足するのは富来 F だけ、他はこの制約を突破する。Mooreの基準は満足しないけど、*stejnegeri* と判断されるものがある。

歯は、西山・長手・魚津・両津の各標本にみられるが、西山雄以外は歯が萌出しないので、このような *Mesoplodon* は古くは *Aodon* (歯がないとの意) とも

いわれた。多くの下顎骨はひどく粉碎しているが、下顎関節顆の直前にちよつとした粗面がある(両津・魚津、名船標本に見られるので偶然の構造ではない)。しかし、記録もなくその意義は不明である。

⑤ 生態学的側面

いろいろな情報があるが、出産例があるのが注目に価する。すなわち、1988.4.29、1987.4.26、それぞれ輪島と上越において新生児と思われる個体が上がっている。また浮遊異物の胃内容の発見例もある。ただし、食性の証拠となるような胃の内容物は発見されていない。